

令和5年度
学校関係者評価報告書

新潟医療福祉カレッジ

令和 6 年 6 月 5 日

令和 5 年度 学校関係者評価報告書

学校法人エイシンカレッジ
新潟医療福祉カレッジ
学校関係者評価委員会

学校法人エイシンカレッジ 新潟医療福祉カレッジ 学校関係者評価委員会は、令和 5 年度学校自己評価の結果に基づき学校関係者評価を実施しましたので、以下のとおり報告致します。

1. 基本方針

本校における学校関係者評価は、自己評価結果を基に課題を明確にし、関係者にて組織された学校関係者評価委員から意見を聞いたうえで、学校運営及び教育活動の改善を図ることを基本方針とする。

また、公表については「新潟医療福祉カレッジ 学校評価実施規定」に則り実施するものとする。

2. 開催日時及び場所

日時：令和 6 年 6 月 5 日（水） 14:00～15:30

場所：新潟医療福祉カレッジ 1 号館 202 教室

3. 出席者

委員会の出席者は以下のとおり。

所属	役職	氏名
<委員長>		
新潟医療福祉カレッジ	学校長	山田 允宣
<外部評価委員>		
特別養護老人ホーム花見の里	施設長	砂井 一哉
介護老人保健施設いわむろの里	部長	阿部 恵子
<内部評価委員>		
新潟医療福祉カレッジ	副校長	星野 哲裕
新潟医療福祉カレッジ	副校長・教務部長	星野 和幸
新潟医療福祉カレッジ	学科長	堀川 智美
新潟医療福祉カレッジ	事務局長	田家 愛

4. 委員会次第

- (1) 開会
- (2) 学校長挨拶
- (3) 出席者紹介
- (4) 自己評価結果に関する報告及び意見交換
- (5) 閉会

5. 自己評価結果に関する報告及び意見交換について

(1) 教育理念・目標・人材育成像等

- ・「学校へ行くことが楽しくなる」にするためにどのような取り組みをしているのか
=>座学だけではなく、グループワークやゲームを取り入れた授業にしている
月に1回のクラスイベントを行い検定後の楽しみを設けるようにしている
- =>職員が何かを行うときの判断基準として「楽しいかどうか」を大事にしている
イベントも学生と一緒に楽しみながら取り組んでいる

(2) 学校運営

- ・法人全体で、国の制度や方針に則って運営している。
- ・新規計画・方針等は、理事会で承認を得たうえでやっている。

(3) 教育活動

- ・職員研修をルール化したのが、カリキュラムとしては弱い。
他の法人ではどのように研修を行っているのかも参考にしたい。
- =>福祉施設では階層別に研修があり、月に1度は何かしらの研修を実施している。
外部に研修に行った場合は、内容を持ち帰って施設内で伝達研修を行う。
外部研修は横のつながりができることが魅力の一つ。
- =>施設で研修を行う際は、シフトの関係で受講できないということがないように
2回同じものを実施している。

(4) 学修成果

(介護福祉科)

- ・国家試験合格率および就職率 100%を達成。退学者は1名発生。
- ・卒業後のキャリア形成の支援をどのように行うのかは、今後の課題

(介護福祉士基礎学科)

- ・語学力が低いのであれば、2年間のうちにもっと日本語に力をいれてはどうか。
- =>現状は継続的な日本語の学びは提供できていない。
- ・日本人ならではの思考や価値観がある。文化も違う。
現場ではビジネスマナーが本人に浸透していかない現実がある
- =>空気を読むことは難しいので、繰り返し伝えることで理解を促したい

(医療秘書科)

- ・相手が選べる 1on1 はよいアイデア。何人で担当しているのか
- ⇒>4名で担当。教員は年齢や経験が様々。固定で同じ教員と話をする学生もいれば、その時の学生の状況に合わせて、別の教員と話をする学生もいる。
- ・介護事務や福祉会計事務は学べるのか？男性はいるのか？
- ⇒>介護事務のみ学習。以前は男性もいたが、現在は女子のみ。

(社会福祉科・社会福祉専攻科)

- ・合格率 100%とは何人合格したのか
- ⇒>14人。3年目から2年間かけて国試対策を行っている
- ・就職先は相談員なのか介護なのか
- ⇒>2つに分かれる。最近は放課後等デイサービスへの就職も増えてきた

(福祉心理専攻科)

- ・就職希望者はすべて内定を得ることができた
- ・閉科になる。今後はオンラインコース等で心理学の知識を学生支援に活かしたい

(オンライン通信科・オンライン通信専攻科)

- ・新設学科のため、評価できない項目がある
- ・退学率が6名中2名と高い。何らかの理由で高校への通学が難しかった学生の学業継続が課題になると考えていたが、実際は2名とも仕事を持っている学生が退学となった。仕事と学業をどのように両立させるかが課題となる。

(5) 学生支援

- ・年々、個々の能力に差があり、就職が難しいと感じる学生が増えてきた。対策や配慮はどのように行っているのか
- ⇒>個別に対応。本人、保護者、企業と話し合いを重ね、本人の能力が活かせる職場への内定を支援している。

(6) 教育環境

- ・施設では新しい設備が増えている。学校ではあるか？
- ⇒>最新のものは入っていない
- ・実習日誌はPCを可能にしてはどうか
- ⇒>東北福祉大でも手書きからPCに移行することとなった。
- ⇒>介護科も手書きはやめたいが、施設にWifi環境がないと難しいのでは
- ・ソフトやアプリを活用してWifiがない環境でも日誌を作成できるような大学が増えている。キーで管理するものがあるので、検討してみてはどうか？
- ⇒>参考にさせていただく

(7) 学生の受入れ募集

- ・社会のニーズに応えるような取り組みとしてオンライン通信科を設置。
- ・まだまだ入学者数が少ないので、周知に努めていきたい。

(8) 財務

- ・学校の経営基盤は学生数。
日本人学生が減っている中、留学生でフォローができている様子がかがえる。

(9) 法令等の遵守

- ・特になし。

(10) 社会貢献・地域貢献

- ・子ども食堂のニーズはどのようなところにあるのか
=>子どもは無料、大人は200円。
困った人が対象というわけではなく、近隣住民含め幅広く対象としている
- ・立地が駅前なので、子どもは少ないのでは？
=>隣の公園から子どもが食べに来ることもある
=>町内会で回覧板が回って、お年寄りがきてくれることもある。